

PMDA 医療安全情報

(独)医薬品医療機器総合機構

pmda No.60 2020年 8月

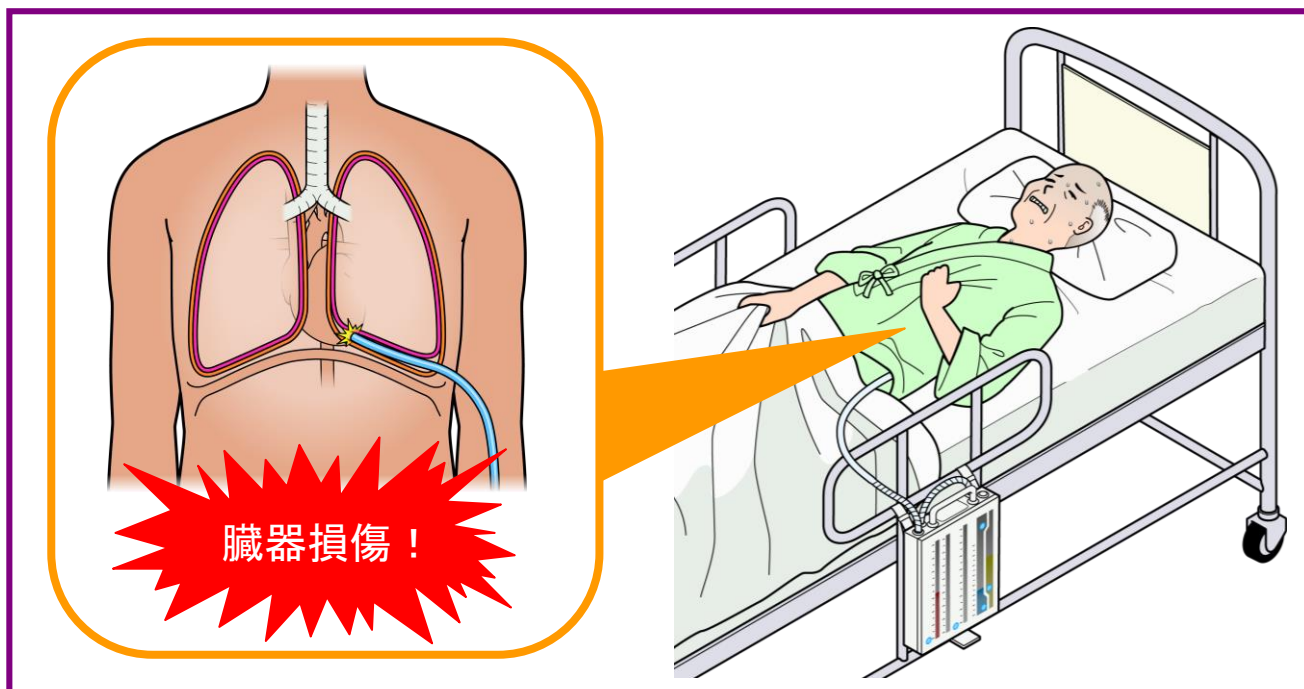
胸腔ドレーン取扱い時の注意について

POINT 安全使用のために注意するポイント

- (事例1) 胸部レントゲンにて右肺虚脱を認めたため、胸腔ドレーンを挿入後、胸部レントゲンで確認した。胸腔ドレーン挿入2日後、自己血癒着を施行した際、咳とともに血液が喀出されたため、胸部CT撮影を実施したところ胸腔ドレーンが右上肺野に穿通していた。
- (事例2) 胸水貯留を認め、ドレナージを実施するため胸腔ドレーンを挿入したところ、疼痛を訴え、経皮的動脈血酸素飽和度(SpO₂)の低下を認めた。胸腔鏡にて確認すると、下行大動脈及び肺底区域に損傷を認めた。

1 胸腔ドレーン留置時の注意点

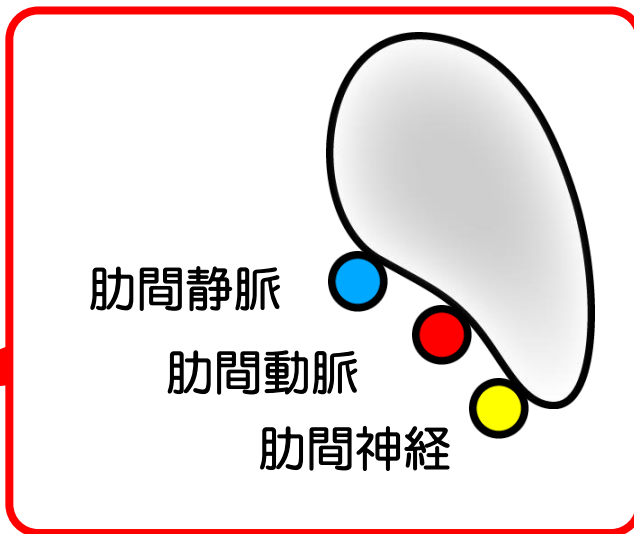
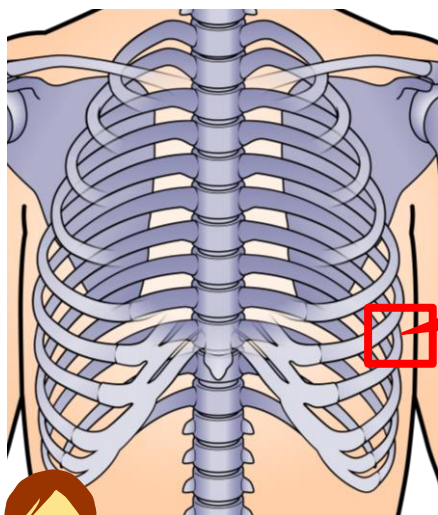
- 胸腔ドレーンを挿入する際は、血管、肺や心臓等の臓器を損傷しないように挿入位置や挿入方向に注意すること。



胸腔ドレーンだけではなく、胸腔穿刺でも同様に大動脈、肺や心臓等の臓器を損傷する可能性があるので、注意しましょう！

胸腔ドレーン挿入位置・方向の注意点

ドレーンを挿入する位置



肋間静脈

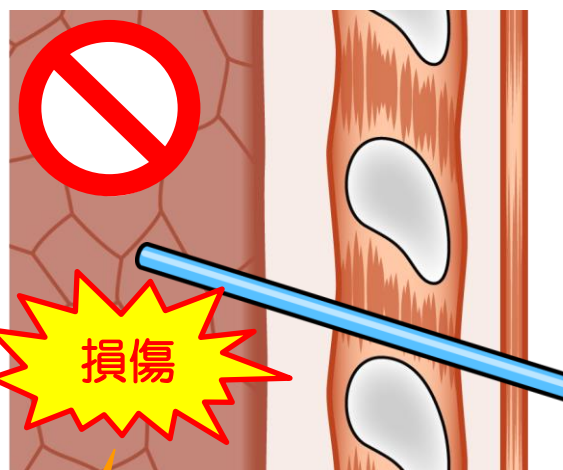
肋間動脈

肋間神経



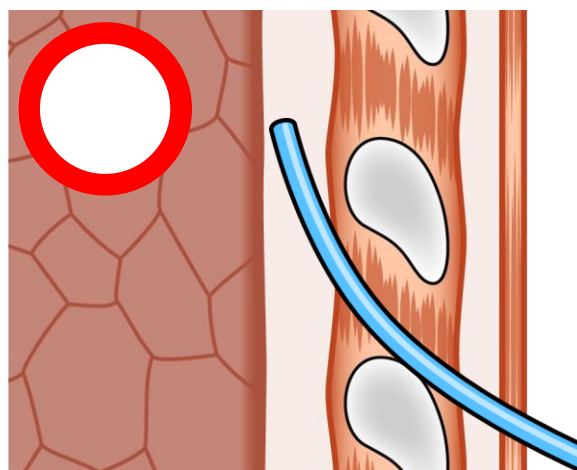
肋骨の直下には、肋間動脈・肋間静脈・肋間神経が走行しているため、カテーテル等の挿入時に損傷させないように注意しましょう！

ドレーンの挿入方向



損傷

挿入位置や挿入方向によっては、心臓や血管を損傷させたり、肝臓や脾臓に刺入してしまう可能性があります。



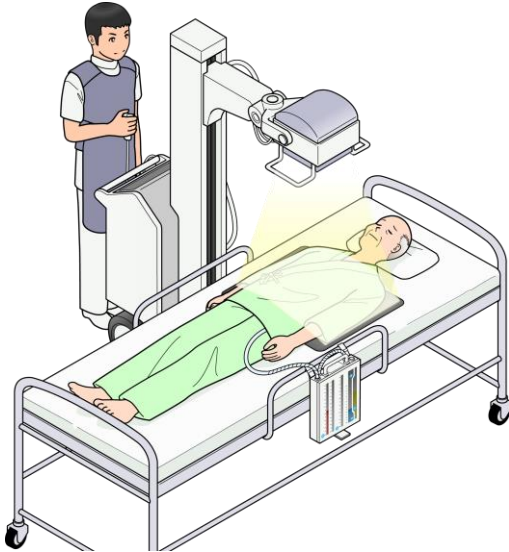
臓器や組織を損傷しないように、チューブ先端を胸腔に挿入したら挿入方向に注意しましょう！
また、慎重に挿入し、違和感が確認されたら、挿入操作を中断、異常の有無を確認することも重要です。



2 胸腔ドレーン挿入後の注意点

- 胸腔ドレーンを目的とする位置に留置できていることを、胸部レントゲン撮影により確認の上、患者状態をモニタリングすること。

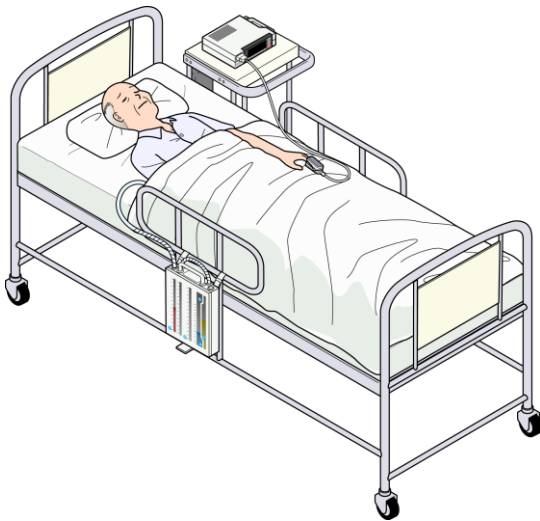
胸部レントゲン撮影による確認



血性の排液量やエアリークの確認



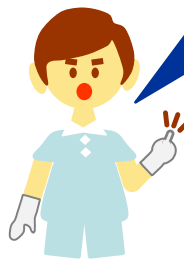
バイタルの確認



その他

- 皮下気腫発現の確認

など



出血が続くとショック状態に陥ります。血性排液量の増加やバイタル等を確認し、速やかに対応することが重要です！

本情報の留意点

- * このPMDA医療安全情報は、公益財団法人日本医療機能評価機構の医療事故情報収集等事業報告書及び医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律に基づく副作用・不具合報告において収集された事例の中などから、独立行政法人医薬品医療機器総合機構が専門家の意見を参考に医薬品、医療機器の安全使用推進の観点から医療関係者により分かりやすい形で情報提供を行うものです。
- * この情報の作成に当たり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。
- * この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課したりするものではなく、あくまで医療従事者に対し、医薬品、医療機器の安全使用の推進を支援する情報として作成したものです。

どこよりも早く
PMDA医療安全情報を
入手できます！
登録はこちらから。

